

公益社団法人私立大学情報教育協会

平成 24 年度第 2 回情報教育研究委員会情報リテラシー情報倫理分科会 議事記録

I. 日 時：平成 24 年 6 月 29 日(金) 17:30~19:30

II. 場 所：公益社団法人私立大学情報教育協会、事務局会議室

III. 参加者：玉田主査、和田委員、田村委員、前野委員、照屋委員、中西委員、本村委員(Skype)
事務局：井端事務局長、森下主幹、野本

IV. 検討事項

1. 到達目標の見直しについて

- ・ 教えられる先生がいないのではないかと、ボリュームが多い部分を変えられるように変更した。
- ・ 高校でも技術的な内容もやっているのだから、大学で外すのはどうか、前のレベルを維持した方がよいのではないかと。
- ・ 到達目標 3 の到達度 1 は同じレベルと判断、到達度 2 は統合したのとして判断、到達度には「モデル化」「プログラム」「シミュレーション」のキーワードを入れるべきではないかと、高校の教科書には記載がある。
- ・ 例示として、どういうふうに授業させるのかモデルを描くようしたい。多くの先生へのヒントになるようなものにしたい。到達目標 2, 3 について見直しを考えたい。
- ・ 理想としては、高校のレベルをカバーしたいが、段階を設けて 2 段階で考えてはどうか。
- ・ 教育目標 3 について、難しい部分を文系の先生は理系の先生の力を借りてできないか。
- ・ 教養と専門の中につながるようにできないか。
- ・ 自ら問題を見つけて解決することは大切にしたい。
- ・ 活用させる姿として例示を出してはどうか。
- ・ 知識を活用するまでの目標値を設定しなければならないのではないかと、現状の学生のレベルではなく高校レベルからの向上ではないかと。
- ・ 高校の現状では、エクセルを使ってプログラムを少し実施している。
- ・ プログラミングは仕組みがあることを分からせるのが大切ではないか。例えば、SE と話をする場合の準備になる。ロジックのイメージ、文章記述にも表れるので、論理性として指導の必要性を感じる、説得する文章表現にモデル化して文章を書くこと。
- ・ 到達目標 3 は元の内容を反映して検討することも考慮する。
- ・ 到達目標 2, 3 の例示を具体例を入れて 2 行ぐらいで説明することを考える。

V. 今後の予定について

- ・ ガイドラインの到達目標 2, 3 について見直しを行う。
- ・ 授業例について、到達目標 2, 3 についても検討を行う。
- ・ 次回委員会 7 月 27 日(金) 17 時 30 分から 事務局会議室